

280!

日米会談決裂す

昭和十六年十二月七日



「日」
戦場で
逢はふ

米

「首」を洗つて
出直して来い



2802

大詔渙發

皇国英米に
宣戦す

昭和十六年十二月八日



皇軍ハワイ真珠湾を
奇襲し、オクラホマ、
ユースト、ヴァーシニア、
アリゾナ
三艦を撃沈す



皇軍電光
石火、一舉に
香港、シンガポール
ダバオ、マニラ
等の敵基
地を襲ふ



2803

皇軍三面六臂

昭和十六年十二月九日



2804

連戦連勝

昭和十六年十二月十日



マレー
半島沖
にて英の
主艦ブリス・オフ
ワールズ(三五〇〇ト)
レハルス(三二〇〇ト)
を撃沈す

泰国日本側
に帰属す



2805

獨伊對英未宣戰
日獨伊新協定

昭和十六年十二月十一日



協定
要項

一日獨伊は勝利

を得るまで
戦力して戦
ひ抜く事

二日獨伊は抜け

がけの單獨講
和あどせぬ事

三勝利の後も

長く親交を継
續する事



2806

皇軍征畧地の開戦一週間の成績

昭和十六年十二月十五日

●は征畧地



2807

合CD包圍の箍崩壊す

昭和十六年十二月十五日



2808

臨時議會

兩日にて決す

昭和十六年十二月十六日



政府

「即決して

貰いたい

臨時軍事費追加
豫算案(二十八億四)

敵産管理法案

戦時犯罪處罰法案

興學振興臨時増徴法案

議會

「原案賛成

2809

臺灣激震

昭和十六年十二月十七日



花蓮港廳

嘉義附近

震源
死者
重傷者
輕傷者
全壞家屋

三一九
一七四
二六三
一七六八

臺東廳

臺中州

高雄州

臺

南

橋

南臺

麻里

新營

嘉義

朴子

北港

斗六

斗南

北

大塔山

2676

2455

新高山

3962

秀姑巒山

3833

南玉山

3604

3568

雲

平安





2810

マレー半島密林戦

昭和十六年十二月十九日



2811

香港敵前上陸

昭和十六年十二月十九日



2812

皇軍萬能

昭和十六年十二月二十日



能走能翔
能游能潛
皇軍到處
醜敵潰滅



2813

英米煩悶

ワシントン
會議

昭和十六年十二月二十三日



チャーチル

「トーも弱つたね、

何とかソ聯の熊公

をけしかけて、

日本の聲

まかぶり

つかせる

方法はちいさ

ルーズベルト

「それは駄目

だらう、

ソ聯も

それ

程馬

鹿でも

ふいふ

日本も

お尻の用心

はして居るよ、

それよりは、お前の十八番で、何かに
化けて、敵をだまかす工支はちいさ



2814

陸海空の鏖戦

昭和十六年十二月二十五日

フィリピン
ボルネオ
マルマ

を衝く



2815

香港陷落

英軍降服

昭和十六年十二月二十五日



日「神妙に降参致すに
於ては武士の情子由て

一命は

助け

てつ

かね

すが

今後悪人

を誑かすことは

宥さぬぞ。

香港

「お有り難う

ございます。

何分空腹と恐怖

とて、化ける力も

あくふりあしたので。

お情は、油揚げを

腹一はい食はせて

下さい。



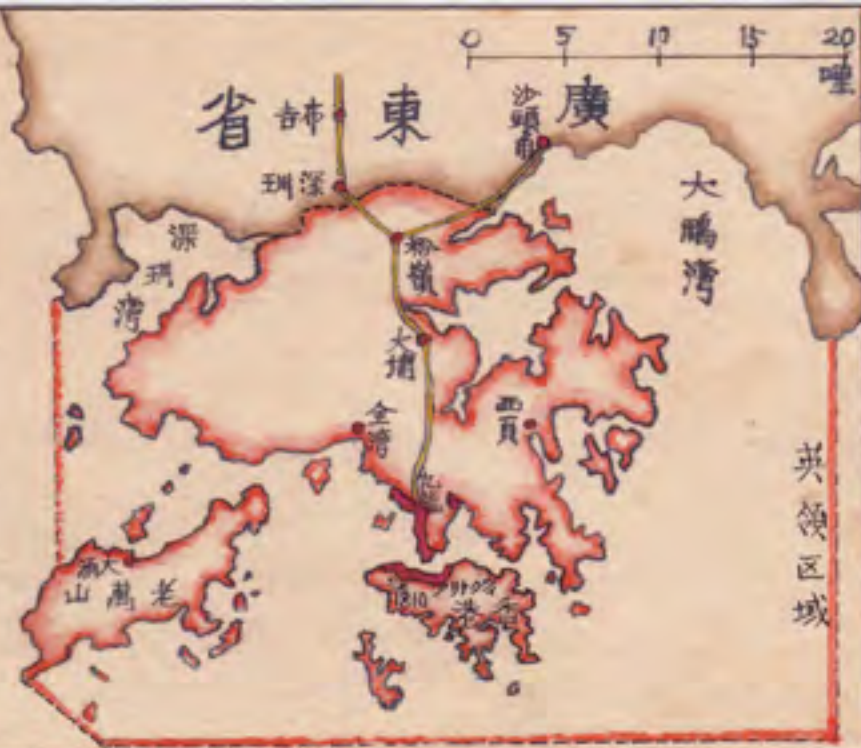
2816

支那の英領地

昭和十六年十二月廿七日



英領区域



廣東灣

英領地六十三、三平方日本里
人口約百五十萬

逝ける人

自十月一日
至十二月三十一日

昭和十六年十二月三十一日



濱野知三郎 七三

関屋敏子 三八

小林龜久雄 四八

智陽宮大妃好子殿下 七九

河合操 七八

若林貴藏 七七

横地永太郎 七九

村井貞之助 七二

岡今朝雄 六三

近角常觀 七二

齊藤清太郎 七三

小川梅三郎 八〇

須田卓爾 七三

香宗我部壽 四八

井口乘海 五九

吉田増藏 七六

片倉健吉 七二

岩垂邦彦 八五

谷口尚真 七二

宮本武之輔 五〇

初山半三郎

中村吉藏 六五

太田廣太郎

田中文藏

中野太三郎 六二

平田多津子 八〇

田村謙治郎 五三

松本重雄 七二

横手千代之助 七一

金子養三 六〇

小川琢治 七二

南方熊楠 七五

近重貞澄 七二

岡本貞一 六三

植村俊平 七九

眞鍋嘉一郎 六四

中村賢一郎 六三

足立康 四四

昭和十六年畧譜

昭和十六年十二月三十一日



吉		凶		官公辞令		関係係事		講		著	
伊東淳子生る	二九	伊東純正結婚	六一	紀子六郎年祝典来朝紀念章授与	一	雄聖殿	一	通洞橋の話	二	支那建築藝術	九
箕田豊子嫁ぐ	二四	村井清正死	五	忠実顯彰會顧問	二	聚德園鳥居	三	日支藝術の對比	二	支那文化の特性	九
入沢五十子嫁ぐ	三九	山下正武死	四	木村一組下賜	五	武内金平氏墓差	五	日本建築藝術の諸	二	仙印と甘蘭印の史蹟	三
三橋 子生る	二	島村信一死	四七	保健事業委員	八	佐藤功一氏墓差	八	通洞橋の話	二	支那建築藝術	九
平田安子嫁ぐ	二	伊東純正結婚	六一	日本科學史編纂委員	三	日本建築藝術の諸	二	通洞橋の話	二	支那文化の特性	九
平田子死	一五	村井清正死	五	忠実顯彰會顧問	二	聚德園鳥居	三	日支藝術の對比	二	仙印と甘蘭印の史蹟	三
小野茂子三女と	一五	島村信一死	四七	忠実顯彰會顧問	二	武内金平氏墓差	五	日本建築藝術の諸	二	支那建築藝術	九
賞勲局	一	村井清正死	五	忠実顯彰會顧問	二	佐藤功一氏墓差	八	通洞橋の話	二	支那文化の特性	九
忠実顯彰會	二	伊東純正結婚	六一	忠実顯彰會顧問	二	日本建築藝術の諸	二	通洞橋の話	二	仙印と甘蘭印の史蹟	三
東京市	八	村井清正死	五	忠実顯彰會顧問	二	聚德園鳥居	三	日支藝術の對比	二	支那建築藝術	九
帝國學士院	三	島村信一死	四七	忠実顯彰會顧問	二	武内金平氏墓差	五	日本建築藝術の諸	二	支那文化の特性	九
伊賀上野	一	伊東純正結婚	六一	忠実顯彰會顧問	二	佐藤功一氏墓差	八	通洞橋の話	二	仙印と甘蘭印の史蹟	三
柏寄	一	村井清正死	五	忠実顯彰會顧問	二	日本建築藝術の諸	二	通洞橋の話	二	支那建築藝術	九
廣島高師	二	伊東純正結婚	六一	忠実顯彰會顧問	二	聚德園鳥居	三	日支藝術の對比	二	支那文化の特性	九
廣島文理大	二	村井清正死	五	忠実顯彰會顧問	二	武内金平氏墓差	五	日本建築藝術の諸	二	仙印と甘蘭印の史蹟	三
早大高工卒業式	三	島村信一死	四七	忠実顯彰會顧問	二	佐藤功一氏墓差	八	通洞橋の話	二	支那建築藝術	九
明治聖徳記念學會	五	伊東純正結婚	六一	忠実顯彰會顧問	二	日本建築藝術の諸	二	通洞橋の話	二	支那文化の特性	九
早大文學部	六	村井清正死	五	忠実顯彰會顧問	二	聚德園鳥居	三	日支藝術の對比	二	仙印と甘蘭印の史蹟	三
同	六	伊東純正結婚	六一	忠実顯彰會顧問	二	武内金平氏墓差	五	日本建築藝術の諸	二	支那建築藝術	九
同	六	村井清正死	五	忠実顯彰會顧問	二	佐藤功一氏墓差	八	通洞橋の話	二	支那文化の特性	九
鐵道協会	九	島村信一死	四七	忠実顯彰會顧問	二	日本建築藝術の諸	二	通洞橋の話	二	仙印と甘蘭印の史蹟	三
史蹟等保存協会	九	伊東純正結婚	六一	忠実顯彰會顧問	二	聚德園鳥居	三	日支藝術の對比	二	支那建築藝術	九
東方文化學院	三	村井清正死	五	忠実顯彰會顧問	二	武内金平氏墓差	五	日本建築藝術の諸	二	支那文化の特性	九
全	三	伊東純正結婚	六一	忠実顯彰會顧問	二	佐藤功一氏墓差	八	通洞橋の話	二	仙印と甘蘭印の史蹟	三
弟二巻	三	村井清正死	五	忠実顯彰會顧問	二	日本建築藝術の諸	二	通洞橋の話	二	支那建築藝術	九
弟二巻	三	島村信一死	四七	忠実顯彰會顧問	二	聚德園鳥居	三	日支藝術の對比	二	支那文化の特性	九
全	三	伊東純正結婚	六一	忠実顯彰會顧問	二	武内金平氏墓差	五	日本建築藝術の諸	二	仙印と甘蘭印の史蹟	三

2819

昭和壬午

昭和十七年元日



天馬御空
壬午制海

立ちさわぐ
太平洋
の荒波を
乗り鎮め
行く
みづのへの
午



2820

戦時新年の風俗十種

昭和十七年正月三日



紋付
礼装

モーニング

羽織袴

背廣

着流し

国民服



2821

マニラ陷落
没落す
昭
和
十
七
年
正
月
四
日



新章百〇





2822

シハブ
親城危し
昭和十七年二月十日



2823

敵潛艦日本近海を窺ふ

昭和十七年正月十二日



2824

セベス征伐

メナドを占領す

昭和十七年正月十三日



ジロロ

「アレ、おかあさんが
殺される！」



ルサッカマ

セベス

「目ほど取られちや先は闇
足を取られりや、負かつさる」



2825

米世艦震頭を撃沈す

昭和十七年五月十五日



2826

鳥合の衆

昭和十七年正月十六日



米英

「餓鬼ども、みんな来い、日本に勝つたら
ご褒美はいくらでも呉れてやる。
来ふい奴は片っ端から叩き
殺すぞ」

米英にか構
する世界の
小弱国、合
せて三十六ヶ
国と称す



2827

悲喜交々

昭和十七年正月十八日



「大増税で貯蓄に、
物資缺乏で物價騰貴では
聊か閑口せざる
を得まい



「この期に及
んで閑口する
奴があるか。
おれあんか
勇氣一倍して
来るね。戦場
は殊勲をたてるん
だから豪勢な
ものさ。」



2828

累卵の狻猊城

昭和十七年正月十九日



表門の戸締りに
安心して裏門を
あけ放しはした
狻猊城
兵法を知らぬ
英の迂愚



2829

東條首相獅子吼

才七十九
議會に於て

昭和十七年正月二十一日



東條

「この赤線圏内は

藩局皇国の

領土を保護国

として

確保するの

である





2830

邪は正に勝たず

昭和十七年正月二十二日



2831

蔣英米の自暴自棄

昭和十七年正月二十二日



蔣

旦那！

いやさ、英米

の玄田生！

お此の方は

ドーして呉れる

んだ。つてべ

ぬかすて日本

の方に寝返

へりするぞ



英米

馬鹿野郎！

手めいふんかに

構つて居るれろかい、

おれ達がこんふに

忙がしいのが

解らふいか。

勝手に

しやがれ



2832

泰・英・米に宣戦す

昭和十七年正月二十四日



2833

シズホル風前の燈

シズホルバール占領

昭和十七年
二月一日



2834

皇軍唇牙堡に上陸す

昭和十七年二月九日



「ゴリヤ
どうしや
逃げるは
勝ちや

2835

皇軍遮二無二星城に突入す

昭和十七年二月十一日



ルーボガンシ

2836

獨艦隊ドーバー海峡を通過す

昭和十七年二月十三日

英軍呆然



2837

星城白兵戰

昭和十七年二月十四日



2838

蔣夫妻印度に流浪す

昭和十七年二月十五日



御承知の通り、五年越しの長道中にて

路銀もスツカリつかひ果し、

飢と瘧疾に難儀致

して居ります。

どうぞ御援助を

御願ひ申し上げます

印度

「お気の毒だが

こつちも困つてゐる

所で、何とも致し方

がない。ソ聯へても行つて

頼んで見たらどうかだ。

大英帝国東亞民族博物館
印度支院 ペシヤル出張所

2839

辛^シ餓^ガ堡^ヤ陷^ル落^ル 英軍無條件
降服

昭和十七年二月十五日



皇軍（正装）
「無條件降伏あら
許して遣はす。」



英軍（半裸体）

「第二回戦には負けた
から、戦の規定に従って。
潔よく明朗に降参する。
第二回戦から後は此度
勝つて見せるぞ。」



2840

梢介石と頑デ―

昭和十七年二月二十日



梢介石

「頑先生、印度と重慶

と提携して東亞の霸

を唱へやう、じゃ

ありませんか、

僕はどうも

犬馬の勞め

厭はふいんです。



頑デ―

「何を馬鹿な！」

俺は英を

蹴飛ばして

印度

獨立

を絶叫

して居る

んだ。

お前は英の奴隷

とあつて露命を

つぶがうとしてゐる

じゃあいい。



284

皇軍長驅濠州を徇ふ

昭和十七年二月二十一日



2842

英米問答

昭和十七年二月二十五日



英

「先生、いやサルーズ君、敗戦以来君もスッカリ尻古垂れたね、

米

「馬鹿言へ！」

日本は猛獣だから格闘では叶はないさ。併し猛獣も結局は人間に殺されるさ。

英

「でも日本は只の猛獣じゃないからね。」

米

「ア、二、三、四、五年で日本も弱るだろう。」

英

「でも、日本が資源地を占領したら？」

米

「それが困るんだよ。」



爪哇海鏖戰

昭初十七年二月二十八日

蛇は一寸にして

氣を吐く

爪哇一戰にして

氣を失ふ

忠太

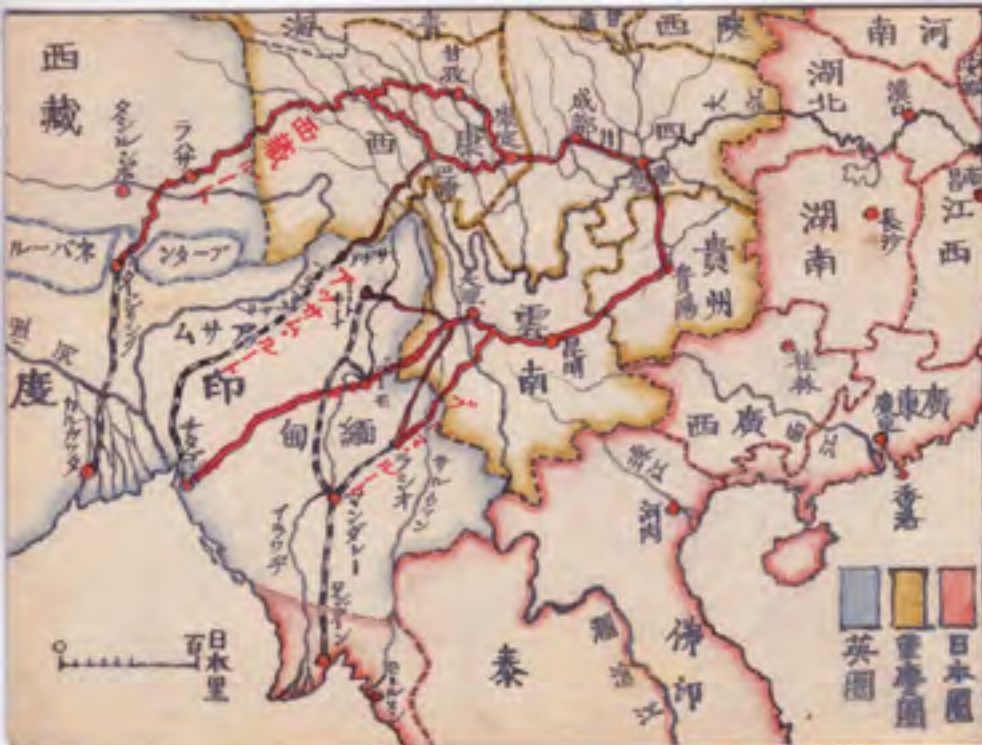
ホルネオ



2844

援將ハート(出来あい相談)

昭和十七年三月二日



2845

四百年前の理想實現近し

昭和十七年三月九日
皇軍バタビアを占領す
蘭領使す



阿蘭陀
八万八千の
島々、謹んで
献上仕り
まする

2846

八肱一握

昭和十七年三月十五日





2847

倭寇來

全米震撼
(皇軍米西岸を襲ふ)

昭和十七年三月十七日



2848

其の基礎を見よ

昭和十七年三月二十一日



米
の基礎



日
磐石の基礎



支
粘骨の基礎



英
泥土の基礎



2849

根幹枝葉

昭和十七年三月二十五日



2851

印度獨立問題

可憫愚蒙之印民
可憎狡獪之英賊



昭和十七年三月三十一日

英

「鬼に角お前達は全力を竭して
日本と戦へ。首尾よく
勝つたら御褒美に
自治国にしてやるがめ」



「独立国には
しなない積りだ。
自治国の方がいいんだよ。」

印

「おやく、独立
は駄目かあ。」



印度教徒

回教徒

逝ける人

自一月一日
至三月三十一日
昭和十七年三月三十一日



男

小唄	辰井	武田	加藤	小川	竹本	成瀬	星島	林	山田	荒木	進藤	荒木	山村	金杉	増田	吉田	山内	西村	小松	葛原	石橋	秋保	波多	縣	高田	日下部
幸兵衛	梅吉	秀雄	外松	平吉	綾之助	隆藏	謹一郎	達太郎	彦八	寅三郎	甲兵衛	田泰園	新花	英五郎	藤之助	白嶺	誠之助	保吉	緑平	猪平	南一	安治	貞走	忍	休廣	三九郎
五九	七四	八一	五三	七四	六八	八九	八四	七五	八八	七七	五九	七一	五八	七八	七二	七六	六二	七六	六四	八一	七一	六二	六二	四九	九	

子

鎌田	赤星	通家	梅小路	松方	建畠	岡野	伊東	岡崎	河合	通理	樋口	桂	谷口	堀内	吉田	堤	中	小林	佐藤	小川	小林	山中	齋藤	山本	日置	藤田	岡崎
勝太郎	隆治	一治	定行	正雄	大夢	榮	鶴子	久次郎	武雄	昌子	孝之助	秀三	留五郎	文次郎	王次郎	正岡	龜太郎	金平	鉄太郎	東洋	芳次郎	清兵衛	阿具	信次郎	好三郎	正也	
七九	六九	五五	七八	七五	六三	六三	七一	六九	六六	六六	六六	七六	七六	八二	八二	四八	七五	五三	七七	五三	六六	七五	六六	六二	六二	九	

2853

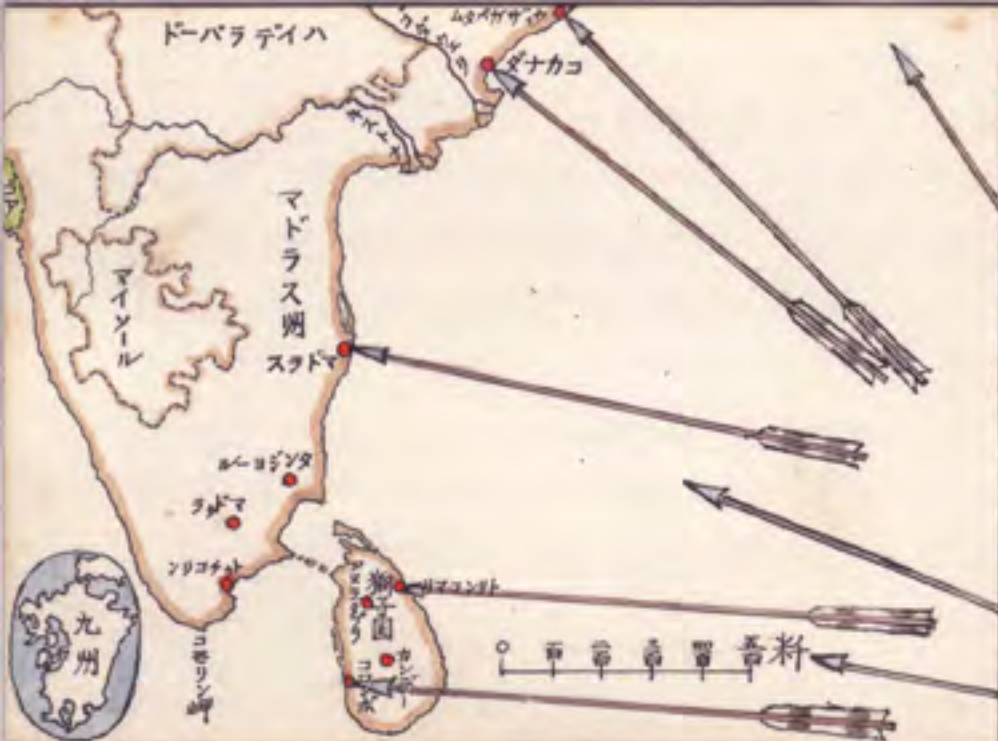
漂流機書日本海岸を開かす

昭和十七年四月三日



皇軍印度東岸を脅す

昭和十七年四月七日



2855

私学の陰智機(入學難)

昭和十七年四月十一日



富豪の成績が零点でも

一萬円出せば入學が出来るのか、安いもんじゃ。



貧民

「百点の

成績でも三千

円以上出さなければ入學が出来ないとは、何と云ふ事でしやう。



バタン半島戡定

昭和十七年四月十四日



2857

敵機襲來

昭和十七年四月十日
神戶名古屋、
東京横浜等
に現はる



2858

高齡者

昭和十七年四月二十一日



七九	八〇	八一	八二	八三	八四	八五	八六	八七	八八	八九	九〇	九三							
高楠順次郎	市村瓊次郎	松井簡治	徳富猪一郎	大橋新太郎	坪谷善四郎	牧野伸顯	眞野文二	高田忠周	三宅雄二郎	野村龍太郎	内藤久寛	木場貞長	大島健一	内田周平	田中館愛福	井上哲次郎	佐々木勇之助	金子堅太郎	清浦奎吾
七五		七六				七七		七八											
狩野直喜	内村達次郎	中村清二	水野隼太郎	山田準	久松定謨	平沼騏一郎	原嘉道	古城貞吉	清水鈞吉	一本喜徳郎	伊東忠太	若槻礼次郎	松井茂	中村不折	狩野亨吉	瀧川亀太郎	矢野恒太	高島平三郎	江口定條

2859

中原復逐鹿

議員候補
族出

昭和十七年四月二十四日



2860

中東支の敵基地潰滅

昭和十七年四月二十六日



2861

議員新陳代謝

昭和十七年五月二日



新不新
陳必陳
以猿代
誰知優
劣



2862

幾倍の暴騰

昭和十七年五月三日



「量が三分の一にあつた上に
 値段が三倍にあつたから
 結局九倍の値上げに
 あつた訳だ」

「いや、その外に味が
 半減したから、
 十八倍の騰貴だ」

「いや、その外に
 サーヴィスが半減した
 から三十六倍の
 暴騰にある」



2863

古人の年齢

昭和十七年五月四日



明治元年に於ける年齢

五〇歳	毛利敬親	三四	井上馨
四六	勝安房	三三	山岡鐵太郎
四五	大村益次郎	三三	榎本武揚
四四	岩倉具視	三二	三條實美
四二	西郷隆盛	三二	徳川慶喜
四一	副島種臣	三一	大倉喜八郎
三八	島津久光	三一	松平春嶽
三八	天野八郎	三一	山縣有朋
三七	大久保利通	三一	後藤象次郎
三六	木戸孝允	二八	伴門五郎
三五	山内容堂	二八	伊藤博文
三五	江藤新平	二六	大品山
		一八	品川弥次郎
			岩倉具定

志士の壽命

名	享年	年代	名	享年	年代
小松藩刀	三三	慶應三	橋本左内	二六	安政六
坂本龍馬	三三	慶應三	村田清風	七三	安政二
高杉晋作	二九	慶應三	藤田東湖	五〇	安政二
平野国臣	三七	元治元	水居宣長	七二	享和元
久坂玄端	二五	元治元	北條時宗	三四	弘安七
吉田松陰	三〇	安政六			

2864

皇軍曼陀羅を占領す

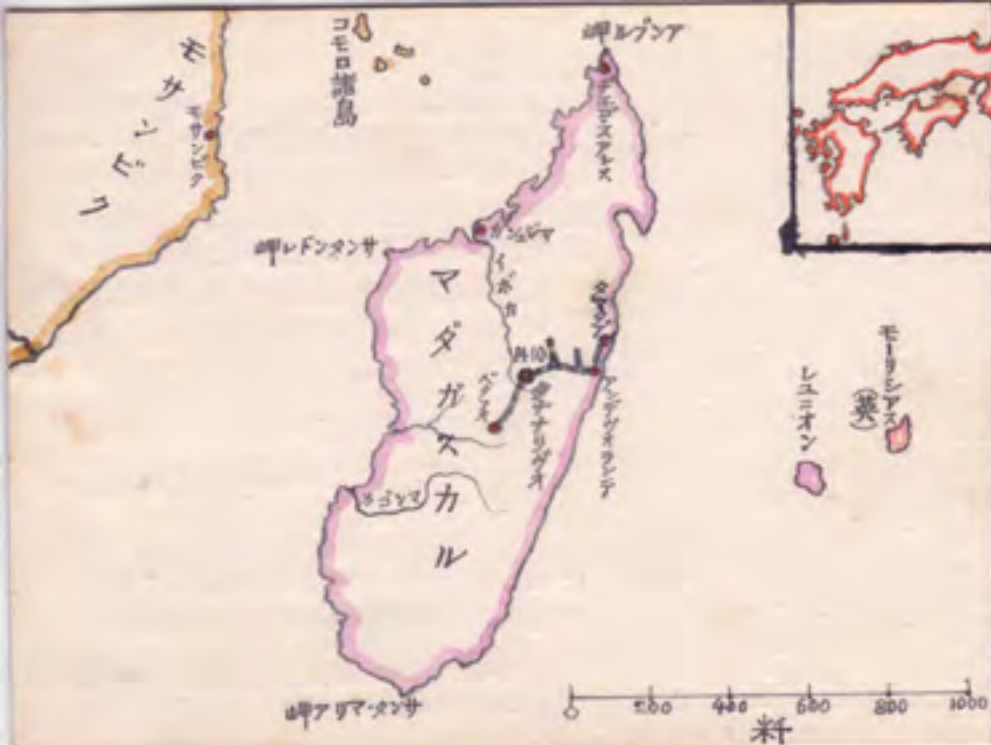
昭和十七年五月四日



2865

英・マダガスカルを侵襲す

昭和十七年五月七日



2866

お玉杓子のコレドール陥落す

昭和十七年五月七日



「お玉杓子の化物め、
餌食にしてやる
觀念しろ、」

「泥足腹の三尾
の国の怪物め、
助けて呉れ降参するから、」



2867

コレヒドール陥落

昭和十七年五月七日



犯皇威
是非道
孤島陷
呂宋亡



2868

珊瑚海の大収穫

昭和十七年五月八日



戦果

一、艦艇

米空母

サラトガ型一隻

撃沈

米空母

ヨークタウン型

一隻大破

米戦艦カリフォルニア型一隻

撃沈

英戦艦ウオスバート型

一隻大破

英甲巡キヤンペラ型

一隻大破

巡艦(型不明)大損害

駆逐艦 一隻撃沈

給油艦(三葉トンネル)一隻大破

二、飛行機

九十八機撃墜

我方損害

一、小型航空母艦

二、飛行機 一隻沈没

三十一機未帰還



2869

獨ノ惡闘

ケルチ半島
爭奪戰

昭和十七年五月十三日



ソ

俺の石頭が

かぢられるあり
なぢつて見ろ



獨

頭からでも尻からでも勝手次第にはかみつぶす

2870

太平洋撃沈さる

乗客五百四
十一人救助さる
九州五島沖に於て五月八日
昭和十七年五月十五日



専門技術
家一千餘名
空しく海の
藻屑と
ある。



2871

國際諜報團檢舉

昭和十七年五月十七日



主謀者

リヒアルト・ゾルゲ

フランソワ・ド・ウーケレル

宮城奥徳

尾崎秀實

マクス・ドラウゼン

秘密漏洩者

西園寺公一

犬養健



2872

新横綱

昭和十七年五月廿五日



右照國
左安藝海

二十才(秋田) 五尺六寸 三十五貫

二十才(廣島) 五尺八寸 三十貫五百銀



2873

長崎丸

味方の機雷に觸れ(五月)
長崎港外に沈没す(土音)(死者十三、行衛不明二十六)
昭和十七年五月二十六日

船長菅源三郎
腹一文字に掻き切り
かへき刀に頸動脈を
切て自殺す



2874

ブラジル、メキシコ、樞軸国に宣戦す

昭和十七年五月三十日



メキ

「隣、我、倭親爺

に睨まれ、チヤ大變だ、

マ、親爺の言ふ

ありにあつて

置けば、

メキ

シコたま

儲かる

かも知

れぬい。

ブラ

「ヤレ、米の尻馬に乗ら

あきやあらぬか。ブラジルでも豚汁でも、

満更利已でジャネーよ。」



2875

ルーズベルト必死の欺瞞

昭和十七年六月一日



ルーズ
「日本は連
戦連
敗じゃ
モー
一と息ひ
滅せするが、窮
鼠却て猫を咬
むかも知れまい。
国民は餘り
樂觀しては
いけまい。」

米国民

「聞て極樂、見て地獄じゃ
よいかしら。いや地獄の沙
汰も金次第がね。
兎に角この眼かくしを
とつて世直ししたい。」



2876

印度信度地方大暴動

昭和十七年六月三日



五十萬の
回教徒
蜂起して
英官憲
を脅かす



2877

皇軍マダガスカル及シドニーを猛撃す

(五月三十一日)

昭和十七年六月五日

特殊潜航艇を以てレドニー港内に突入し
敵軍艦一隻を撃破す



英戦艦
クレン・エリザベス
型二隻足
英乙巡
アスーサ型三隻
を撃破す

2878

この敵何時が滅びん

昭和十七年六月七日



共産軍

中央軍

数字は戦
果の兵数

戦果の兵数

2879

グチハーバーとミッドウエーの相撃戦

(六月四五兩日の鏖戦)

昭和十七年六月十一日



ミッドウエー方面

米空母エンタープライズ型一隻

ホーネット型一隻

撃沈。彼我

撃墜機

約百二十

機。その

他軍

事施

設機

砕

甲巡

サシ

ス型

一機

一機

一機

一機

一機

一機

一機

一機

一機

一機

一機

一機



グチハーバー方面

大型輸送船一隻撃沈。重油槽群ニケ所。大格納庫二棟。

爆破炎上

我が損害

空母一隻喪失。同一隻大破。巡艦二隻大破。未還機三十五機

2880

吏員の大統制

昭和十七年六月十九日



東條

ヨッチの三分の二
は遺して置く。
ソチの三分の一は
片つけて置き。
使へる奴は使ひ、使へない
のは捨てるんだから。

「こんな大きいのも
捨てるんですか？」



2881

皇軍オレゴン・カナダを猛撃す

昭和十七年六月二十五日



ルーズ

「チャー公、

ビクくするふよ。

日本は手も足も

出ない筈だ。

オヤ！

「日本海軍ハ

オレゴン・カナダ

ノ太平洋沿岸

ヲ猛撃シツ、

アリ」

變ぢデマが飛

んで來たぞ。

チャー

ルーズ君、

デマジやあい

様だ。オレゴン・カナダ

を脅して置いて、

濠洲を襲ふ手じやあいかしら。



2882

伊獨軍トブルクを陥る

昭和十七年六月二十五日



英
俺が負けたんじやない。
敵が勝つたのだ。

伊獨
「ドブクロ」じや
承知しあい。
ポートワイン、いやさ。
ポートサイドまで
一口呑みにする。



2883

闇の世の中

昭和十七年六月二十九日



「〇〇が欲しいんですが

百匁賣つて

下さいま

せんか

「無いよ

「公定相場
の十倍
あり

いくら
でも
賣入つ
てあ
げる

十倍結構

百貫目賣

つて貰ひま

しょう



逝ける人

加藤建史四〇

昭和十七年
六月三十日

自四月一日

至六月三十日

白鳥庫吉七八

柳澤銀三八七

長尾雨山七九

河田嗣郎六〇

石垣倉治六三

小森慶助七五

摺澤静走九〇

甫守ふみ七五

田邊鐘太郎

藤光雲七七

野澤吉兵衛六四

菅源三郎六〇

永田庫之助

岩井智海八〇

伯 亀井茲常五九

與謝野晶子六五

伊東米治郎八二

三好重道七二

赤塚正助七一

内田定槌七八

矢吹敬一六〇

坂西由藏六六

ワインガルトナー七八

須賀喜三郎六九

福田舒光三〇

堀内利昌

佐藤惣之助五三

岡田 隼 七五

伯 金子堅太郎九〇

安永きく八〇

石井壽太郎五九

宮城長五郎六五

笠井貞三七〇

寺尾元彦六四

漢字問題

昭和十七年七月一日



「コンホ堅い
不消化ホ字は
喰へない。
宜しく全
廃すべき
であるが、当分
制限で我慢
して置くのは已むを
得ない



イヤく、歳の弱い者
あら格別、普通

の者はよく
咬みしめて
見るがよい。
滋味津々とし
て竭きさい斗り
か、營養價も甚
だ高い。制限
あどとは以て
の外
じや況や全
廃に於てをや。



2886

セズト。ホリ陷落

昭和十七年七月一日



2887

この爲体如何

昭和十七年七月十一日



古今に通じ東西に互り
文武を兼ね和戦に備ふ
この爲体如何



埃及追ひ分敗退

昭和十七年七月十三日



逃げてカイロにかへつたとても
 末はスエズのすて小舟
 何處にとりつく 嶋もない



2889

圖書濫買

昭和十七年七月十四日



「奇麗な本を
見つくらって千円
がとこ集めてくれたまい。
書齋の飾に
するんだから。」

「千円ホツチじゃあ、
立派な本ふら十冊
は買へま
せんよ。」



2890

獨ノ激戰の舞臺

昭和十七年七月十七日



2891

神頼み

昭和十七年七月廿一日



祈らず
とても
神や
護ら
む



祈ッ
ても駄目だよ。
汝の苦悶は、日
本に降伏する
ことに由てのみ
救はれる。
アーメン



2892

獨軍ロストフを屠る

スターリングラード危し
昭和十七年七月二十五日

スターリングラード

従是南 昔コーカサス



2893

世界萬國是火宅

昭和十七年七月三十日



疊みかけつゝ打つ太刀風は、
 一と葉の露の玉簾、
 二人が身とて四つとある、
 いっしゝ積る兇悪の、
 ちくひ來にけん
 天の網、

七重山風

吹くからに、

とよに棚引く遠けむり、
 もの午の国もよろづ皆、
 火宅ありきと悟りたる、
 億こそ知らぬ無量劫、

(曲亭馬琴)



2894

東京市長選挙

昭和十七年八月二日
（岸本綾夫大將かつがる）



かつぎ屋連

「何しろ大將だ、相当貫目もあるから
 押しも効くだろう、
 遮二無二かつぎ込め。」



岸本

「アハハ……好い氣持だ、」

2895

東西應呼

昭和十七年八月三日



日本占領地及
盟友国

獨乙占領地及
盟友国



2896

知恩院の巨鐘應召

昭和十七年八月三日

知恩精舎の鐘の聲
諸行無常の響あり
祇園華頂の花の色
生者必滅の理を示す



2897

印英膝詰談判

昭和十七年八月七日



2898

ガジーン子ルアザト等檻禁する

昭和十七年八月九日



英
蠅螂が龍車
に向ふとは
うぬ等のこと
だ、たにけ
ものめが。

ガジーン
「生き替
り死に
替つて、
思ひを
晴さで
置くべ
きが。



2899

ソロモン海戦

昭和十七年八月九日

